

〔寺社法則〕丁天明七未七ノ廿一

尾張殿御城附

一陰陽師之儀往古ハ、町奉行衆支配ニ候處、中古相改、諸國陰陽師共之義、土御門家江管領被仰付以後ハ、寺社奉行衆御支配ニ相成候由、付而ハ、陰陽師共其職ヲ不取放叱押込或ハ過料等之輕キ御答品御申渡候節も、必寺社奉行衆前へ御召出御申渡候義ニ候哉、左候ハ、白洲江被召出御申渡候哉、或ハ板縁落間等へ被召出候事ニも候哉、

一總而社人と陰陽師と之御取扱方、此方致候へバ、輕キ社家も陰陽師ハ相劣候御取扱ニ候哉、又ハ大旨輕キ社家同様之格ニ御取扱有之事ニも候哉、

御書面答品申渡候節奉行所ニ而ハ、都而答之無差別、直ニ申渡候、且許狀所持之ものハ、評席下通リ江差出、許狀無之ものハ、板縁へ差出候、

〔天保集成絲綸錄八十〕寛政三亥年四月

大目付江

陰陽道、職業いたし候輩は、土御門家支配たるべき儀、勿論候處、近年甚亂雜に相成、陰陽道猥ニ執行候族も有之様ニ相聞候、以來右體之心得違無之様、土御門家より免許を請支配下知堅相守可取行候、

右之趣、不洩様可被相觸候、

四月

右之通可被相觸候

〔徳川禁令考四十九〕寛政七卯年十一月

板倉周防守江松平備前守より

寺院山伏ニ而易道致し候儀ニ付問合